

気仙沼大橋が開通、陸路で大島へ



ひかり新聞

共生共助の社会をめざす

2020.1.20
No.37

一般社団法人
ひかりプロジェクト

地元へ根付いた活動として…

ドリームキャンプ実行委員長 奥原 幹雄

昨年も大勢の皆さまからのご支援とご協力を頂き、2019年7月26日(金)28日(日)、第8回ドリームキャンプ気仙沼大島を開催させていただくことができました。

子どもたちを送り出してくださったご家族の皆さま、スタッフとして全国から参加してくださった皆さま、開催に向けて取り組んだ「赤い羽根共同募金」の募金活動にご協力頂きました皆さま、本当にありがとうございました。改めてお礼申し上げます。

3日間、子どもたちが元気に過ごし、無事にご家族の元に帰ることができました。子どもたちの感想文を読みますと、キャンプでの楽しかった思い出がたくさん詰まっています。まずは大成功だったのではないかと思います。

しかし、大成功のなかにも様々な反省点があり、至らない点や改めて気づかされることも多く、今年開催に向けてさらに改善していきたいと思っております。

さて、8回目の昨年は、「赤い羽根共同募金」による資金調達の成功や、「大島架橋の開通」にもなう交通手段の変更など、新しいことがいくつかありました。

なかでも注目すべきは、「ドリームキャンプ卒業生の、高校生スタッフの誕生」です。2017年の第6回から「リーダー育成」という目標を掲げ、ジュニア隊を中心に取り組んできましたが、今回第1号のドリームキャンプ卒業のスタッフ誕生が実現し、大き

な一歩を踏み出すことができました。その他にも、気仙沼在住の若手リーダーが数名参加してくださり、地元の仲間が年々増えてきております。

東日本大震災後、地域の過疎化や高齢化はますます進んでおり、世代を超えた人と人との関わり合い、共に活動する機会は、どの地域においても重要視されております。

そのなかで、ドリームキャンプが8年間継続して開催することができたということは大きな意味があり、運営に携わる私たちにとっては、大きな経験・大きな喜びであります。気仙沼地域にとっても、貴重な財産となっていくますように、今後とも地域の皆さまと共に、ドリームキャンプ活動に取り組んでまいりたいと思っております。

「みやぎチャレンジプロジェクト」ご寄付のお礼

この度は赤い羽根共同募金「みやぎチャレンジプロジェクト」において『第8回ドリームキャンプ気仙沼大島』へご寄付を頂きありがとうございました。おかげさまで目標金額50万円に対し、全国より85件、622,472円のご寄付を頂きました。これもひとえに、皆さまの温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

ご協力頂いたご寄付は『第8回ドリームキャンプ気仙沼大島』の開催にあたり、準備や運営にかかる費用、また若手リーダーの育成に使わせていただきました。

この紙面をお借りして、厚くお礼申し上げます。

キャンプ感想文

原稿の一部を抜粋しました

エッグ隊

山本 梨愛 (クローバー班 / 小学2年)

私は、はじめてドリームキャンプに参加しました。ビュッフェでももちろん、フランクフルト、ポテト、きゅうり、やしそばを食べました。その次に花火をしました。そのあとはねる用意をしてねました。次の日の朝ごはんはサンドイッチをたべました。とてもおいしかったです。次に水着に着替えて海に入りました。きれいな貝からもありました。砂浜でスイカ割りをしました。残念ながらスイカは割れませんでした。海でのお昼ごはんはおにぎりとスイカでした。海から帰って夜はキャンプファイヤーををしました。歌ったりおどったりしました。とても楽しかったです。

ネスト隊

永澤 未来瑠 (九死に一生班 / 小学6年)

私が心に残った思い出は2つあります。1つ目は海です。浅いところやふかいところなどで友達とあそびました。砂場ではスタッフを砂にうめたり、あなをほったりしました。2つ目は野外すい飯です。私は主に野菜を切ったりしました。包丁の使い方など気を付けながら調理しました。とてもおいしいカレーができました。来年もぜひ行きたいです。来年はジュニア隊なのでがんばりたいです。とても楽しい3日間でした。



ジュニア隊

村上 萌乃 (チャー班 / 中学1年)

私は、今が初めてのドリームキャンプでした。今までは、自分が人見知りだったからキャンプというのに参加する

ことがありませんでした。でも、今回参加してみても、テントを立てる時や野外炊飯をした時は、班のみんなと協力して行動することができ、キャンプファイヤーや夜の肝だめし大会などは、みんな楽しく、たくさん行動して、この二泊三日で色々な思い出を作り、自分の中に思い出として心に残りました。

ドリームキャンプに参加したことで、自分になかった物や事を得ることができたとおもいます。初めてのドリームキャンプ、初めてのジュニア隊での活動、不安な事もあったけど、最終日には、楽しく色んな人と話せたりなど、まわりの空気にうちとけあえました。

これからは、ドリームキャンプへの参加を積極的にし、思い出を作っていくたいです。



亀山ハイキング・山頂展望台にて (ジュニア隊)



↑ネスト隊 「炊事」 ジュニア隊↓



星空の下で花火 (エッグ隊)



海へ行くぞ (エッグ隊)



楽しいね!! (ネスト隊)



キャンプファイヤー

エッグ隊

岩淵 麗美 (カミナリ班 / 班付リーダー)

私は今回初めてスタッフとしてドリームキャンプに参加しました。この3日間。子どもたちと触れ合いながらたくさんイベントをしました。

これまでお世話される側でしたが、お世話する側になり、少し大人になったような気がします。スタッフは大変だなと思いましたが、一方では「ありがとう」とか、名前を呼んで「遊ぼう」と言ってくれたのが嬉しかったです。参加して本当に良かったと思えました。また、子どもたちは純粋で、どんな可能性も無限にあると、行動を見て感じました。

3日間、関わってくれた方々、ありがとうございました。

台風15号・19号豪雨被災地にて復旧支援活動



屋根にはブルーシートが（館山市）



強風で落ちた屋根瓦の撤去作業（館山市）

昨秋の台風15号・19号による豪雨被災地の復旧活動において、首都圏災害ボランティア支援機構と共に、ひかりプロジェクトも支援活動を行いました。

10月9日(水) 館山市

館山市郊外に活動拠点のある「一般社団法人つながり」の方々と共に活動した。作業内容は、依頼主の敷地内に積んである瓦等の被災コ



活動を終えて



廃材仮置き場への搬送作業（南房総市）

ミを土嚢袋に詰め、一輪車に積んでトラックまで運び、さらに集積所まで運ぶこと。それぞれの作業を、10名余りで交代しながら分担して実施した。今後も被災ゴミの収集・運搬が中心になると思われる。軽トラックが足りないため、活動に支障をきたしていることを考えると、可能な限り、軽トラックを借りて現地に行くことが望まれる。

10月19日(土) 南房総市

南房総市災害ボランティアセンターに行き、受付で手続きをした。午前中は、風雨による土砂災害の危険度が高く、待機の状態。

その間に、民家屋上の作業のための、釘・ビスを加工する作業をする。午後になって安全確認が取れたので、市内で民宿を経営するお宅の、畳の撤去作業をして、廃材の仮置き場へ搬送した。借りた軽トラックが大いに活躍した一日だった。

10月26日(土) 栃木市

栃木市災害ボランティアセンターにて受付を済ませ、マッチング（作業を紹介され、自分が相応しいと思ったら手を挙げる）で、栃木在住の2名と、私たち4名の6名でチームを作る。活動地は、栃木市園部町の住宅。被災者宅での作業は、和室3部屋の床下の泥出し。その前にタンスを床の間に移動して、床板剥がしと、既に床板が剥がしてある部屋は床下の泥かきを行う。乾いている泥は比較的取りやすいが、まだ生乾きの部分があり、水分を含んだ重い泥で撤去に苦労する。地元の女性ボランティアは床の間など板が残っている部分の下に潜り込み、泥まみれになりながら泥出しを行っていた。本日は土嚢約30袋の泥出しであったが、被災者宅での活動は次の日の継続となった。



この日は全員ドリームキャンプスタッフでした



床下の泥かきは重労働（栃木市）

12月1日(日) 佐野市

台風19号による河川氾濫の被災地、栃木県佐野市にて活動。佐野在住の3名と私たち2名の、5名でチームを組む。作業内容は、高齢者宅の庭の汚泥を集め、土嚢に詰めること。午前10時から昼食・休憩を挟んで午後3時まで作業して、土嚢を約250袋作成した。5名はとも和気あいあい、スムーズに作業が進んだ。また、被災者の方とも親しく交流することができて、厳しくも楽しい活動だった。



佐野はラーメンで有名です!!

今回は、合計7回支援活動を行いました。10/9 館山市 10/16・10/19 南房総市 11/30・12/1 佐野市
まだまだ、災害の復旧作業は続いています。1月14日現在、宮城県丸森町、福島県いわき市、長野市、栃木県内でも、ボランティアによる活動が行われています。

熊本県益城町木山仮設団地にて支援活動

2019年4月14日(日)
 16日(火)、熊本地震3周年を迎えた熊本県益城町木山仮設団地で、ひかりプロジェクトは『移動図書館おあしす』さんと共に支援活動を行いました。

14日午前中は、『スマイル子ども食堂』。地元のボランティアさんと共に10名で、牛丼とおみそ汁作り。地元農家から提供された新鮮な玉ねぎも含め、約80食分を準備。

11時半からの給食開始時刻には、「子どもさんほもちろん、住民の方々も並んでくださりアツという間に完売。おいしかったよ！」の声に、スタッフからも笑顔がこぼれました。



そして、12時半からは、毎回横浜から参加の吉見さんご夫妻を中心に『歌の会』が始まりました。参加された方から、「みんなで歌を歌うと、元気になるね!」とうれしい反応がありました。



みなさんがいつも楽しみにされている『歌の会』キーボードは吉見美紗子さん、右が吉見文男さん

翌15日は夕方から竹とろうを並べ、3千羽にもなる千羽鶴を飾り、16日午前1時25分の本震の時刻に合わせて、住民の方々と黙とうをさせていただきます。今回参加された、ボランティアの橋本敏廣さんのコメントです。

「竹とろうの準備に参加し、ロウソクに点火すると『マシキ』『キヤマ』の文字が浮かび上がりました。午後9時25分『黙とろう』のアナウンスが流れると周囲が段々と静寂になっていき、御霊様や被災者への想いや願いが、ロウソクの



竹とろうで浮かび上がった「マシキ」「キヤマ」の文字



4月14日前震発生の午後9時26分に黙とろう



スマイルナンバーワンの子どもたちによる「しあわせ運べるように」の合唱

災害情報連絡員募集

ひかりプロジェクト(以下、HPA)では、災害情報連絡員を募集しています。

これは、各地で起こる自然災害に対し、HPAが行える物資の支援や、その後の支援活動のために、現地の生の情報をリアルタイムで伝えていただくためのものです。マスコミによる情報発信も重要ですが、これまでの自然災害時の例として、「どこそこで、〇〇が不足している」というニュースが流れると、全国から同じものが殺到するという問題もあります。

私たちは、もっときめ細かい情報発信と、それへの対応を行いたいと考えています。

役割としては、災害発生時の現地情報を、具体的にHPA事務局に連絡していただくことや、被災地で不足している物資、その他のニーズについて情報を発信してもらうことです。

HPAが大々的に救援活動や支援活動を行うことはできませんが、会員やご賛同くださる方々のご協力で精一杯の取り組みをしていきたいと思っております。まずは全国の都道府県に連絡員を配置したいと考えています。賛同いただける方は、HPA事務局までご連絡ください。

明かりに吸い込まれていくよかったです。16日午前1時25分、本震発生の時刻に合わせて『黙とろう』。冷え込みと深夜が重なり、参加者は少数でしたが、篤い祈りを感じました。各地から参加された一般ボランティアの黙々と作業される姿に、感動しました。熊本地震が記憶から消えることのないように願っています」

編集後記

地震から3年経って、ようやく慣れたところで、さらにまた引越すとすると、お年寄りには厳しい状況で、まだまだボランティアによる見回りや傾聴、気分転換などの活動が、今後も求められています。

2019年度2号目の『ひかり新聞』発行が年を越してしまい、大変申し訳ありませんでした。4月の熊本地震3年、7月の第8回ドリームキャンプ気仙沼大島、10月12月の台風・豪雨による災害ボランティア報告等を併せてお届けします。地震のみならず、自然災害の復旧対応の難しさ、そしてボランティアに参加する喜び、ありがたさを改めて感じた昨年でした。今後ともHPAの活動にご理解、ご支援いただけますようお願いいたします。

ひかり新聞 No.37 2020年(令和2年)1月20日

発行者：一般社団法人 ひかりプロジェクト

〒401-0304 山梨県南都留郡富士河口湖町河口175

電話 0555-72-8191 FAX 0555-76-6696

https://hikari-project.jimdo.com/ E-mail: hpa@road.ocn.ne.jp